

資料編

山口市食料・農業・農村振興プラン策定委員会設置要綱
食料・農業・農村に関するアンケート調査（一部抜粋）

山口市食料・農業・農村振興プラン策定委員会設置要綱

(設置及び目的)

第1条 この要綱は、本市の農業・農村の現状、課題等を明らかにし、本市の食料・農業・農村振興の指針となる山口市食料・農業・農村振興プラン（以下「プラン」という。）を策定するにあたり、生産・流通・消費等の関係団体等の意見を幅広く反映させ、農業振興施策を推進するため、山口市食料・農業・農村振興プラン策定委員会（以下「策定委員会」という。）の設置・運営について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 策定委員会は、次に掲げる事項について検討し、意見を述べるものとする。

- (1) プランの策定に関する事項
- (2) その他プランの策定に関し必要な事項

(組織)

第3条 策定委員会は、本市の食料・農業・農村に深く関わりのある者の中から、市長が委嘱する委員をもって組織する。委員の数は15人を超えないこととする。

(会長)

第4条 策定委員会に会長を置き、委員の互選によって定める。

- 2 会長は策定委員会を総理する。
- 3 会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第5条 策定委員会は、会長が招集し、会長が議長となる。

- 2 会長は必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を

聴くことができる。

(任期)

第6条 委員の任期は、委嘱の日からプランの策定を終了するまでとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(庶務)

第7条 策定委員会の庶務は、経済産業部農林政策課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年5月31日から施行する。



1 山口市食料・農業・農村振興プラン策定委員会委員名簿（50音順：敬称略）

氏 名	所 属
江本 紀代子（平成 28 年度）	山口市生活改善実行グループ連絡協議会
田中 京子（平成 29 年度）	
小野 哲司（平成 28 年度）	防府とくち農業協同組合
久門 浩之（平成 29 年度）	
藏本 正敏（平成 28 年度）	山口県山口農林事務所
牛見 哲也（平成 29 年度）	
河野 優二	生活協同組合コープやまぐち
小林 紀代士	農事組合法人川西
椎木 耕司	NPOあとう
杉山 均	株式会社山口青果卸売市場
種市 豊	国立大学法人山口大学
中村 芳男	山口市認定農業者の会
原田 俊二	山口中央農業協同組合
藤井 公	山口商工会議所
本永 利文	公募委員
安田 敏男	山口市農業委員会
山本 浩二	山口宇部農業協同組合
吉富 崇子	山口消費生活研究会

2 策定経過

年 月 日	内 容
平成 28 年 11 月 15 日	第 1 回策定委員会 ・委員委嘱、プラン策定の概要について
平成 29 年 2 月 3 日	第 2 回策定委員会 ・アンケートの実施、素案の骨子について
平成 29 年 5 月 29 日	第 3 回策定委員会 ・委員委嘱、素案（第 1 章～第 3 章）について
平成 29 年 7 月 31 日	第 4 回策定委員会 ・素案（第 1 章～第 6 章）について
平成 29 年 9 月 22 日	第 5 回策定委員会 ・素案について
平成 30 年（2018 年）2 月 5 日	第 6 回策定委員会 ・最終案について

食料・農業・農村に関するアンケート調査（一部抜粋）

（1）調査概要

①調査方法と調査対象

調査対象	調査方法	抽出方法	対象者数
市内市立中学校 (17校) 2年生	学校を通じて配布 ・回収	市内市立中学校2年1組の生徒	455人
20～50代市民	郵送配布・郵送回収	市内21地域ごとに男女別・年代別に各10人ずつ、住民基本台帳より抽出	1,680人
認定農業者	郵送配布・郵送回収	山口市認定農業者の会会員名簿に記載	268人
合計			2,403人

②調査期間と回収状況

調査期間：平成28年12月19日（月）～平成29年1月12日（木）

回収状況：

ア市内市立中学校（17校）2年生

性別	人数	比率
男	201人	48%
女	218人	52%
無回答	2人	0%
合計	421人	100%

イ20～50代市民

性別	人数	比率
男	267人	42%
女	359人	57%
無回答	4人	1%
合計	630人	100%

性別	人数	比率
20代	132人	21%
30代	144人	23%
40代	149人	24%
50代	203人	32%
無回答	2人	0%
合計	630人	100%

ウ認定農業者

選択肢	回答の数	比率
個人	106人	65%
法人	57人	35%
合計	163人	100%



有効回収率：

調査対象	対象者数	回答者数	回収率
市内市立中学校 (17校) 2年生	455人	421人	92.5%
20～50代市民	1,680人	630人	37.5%
認定農業者	268人	163人	60.8%
合計	2,403人	1,214人	50.5%

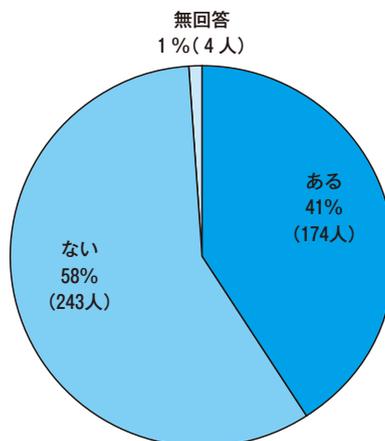
(2) 調査結果

① 農業への興味や関心

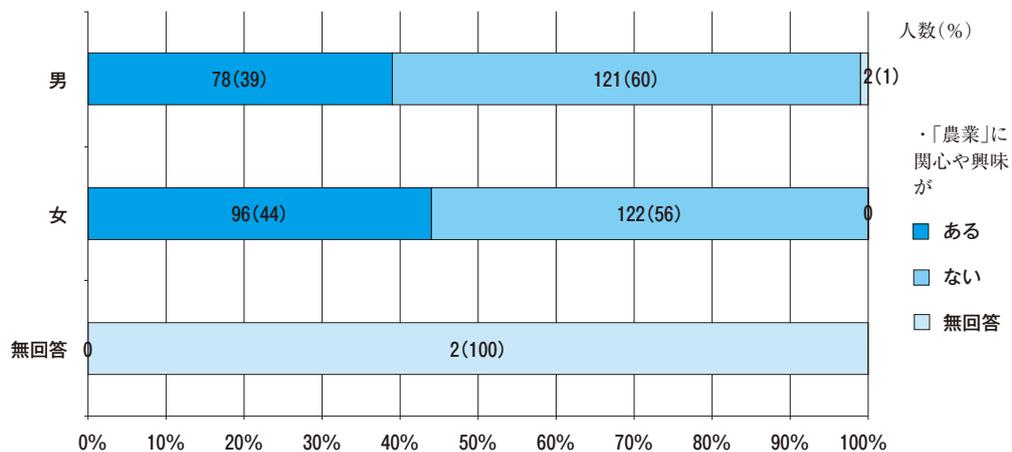
ア 市内市立中学校 (17校) 2年生

- ・ 男子生徒よりも女子生徒のほうが農業に興味・関心がある。
- ・ 農作業体験は、農業への興味・関心を促す。
- ・ 学校 (地域) によって、興味・関心を持つ生徒の割合に大きな差がある。

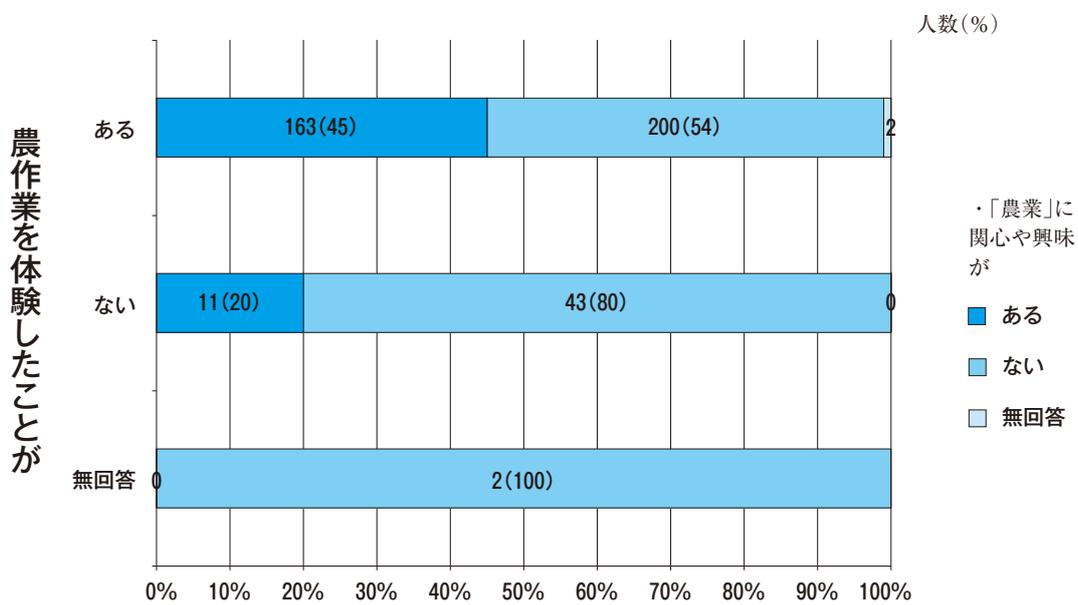
問：あなたは「農業」に関心や興味がありますか。(1つだけ選んでください)



【男女別】



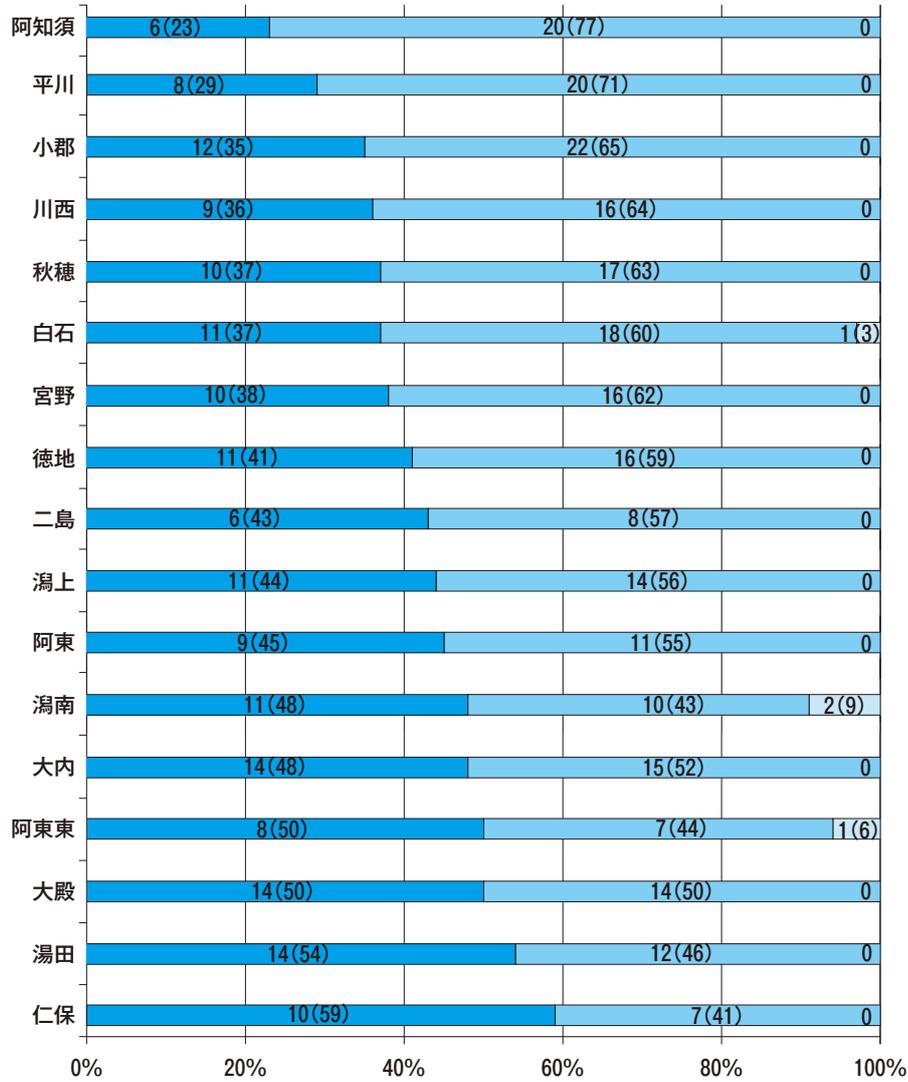
【農作業体験の有無別】





【学校別】

人数 (%)

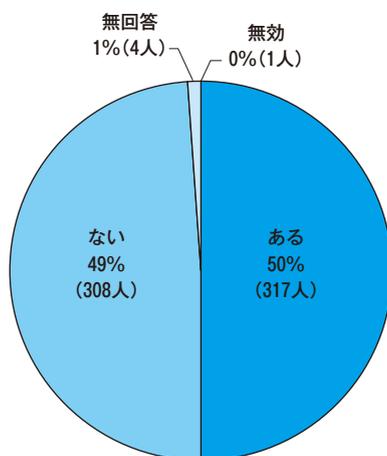


・「農業」に関心や興味がある
■ ある
■ ない
■ 無回答

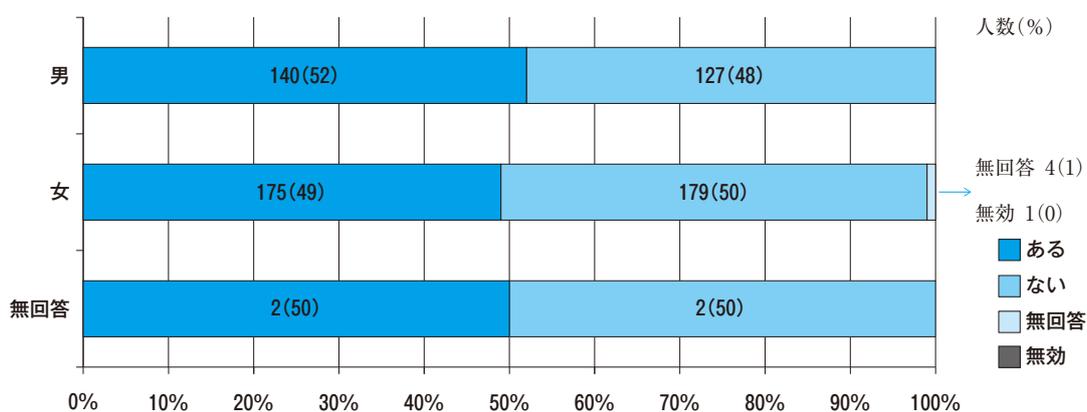
イ20～50代市民

- ・女性よりも男性の方が農業にやや興味・関心がある。
- ・年代による大きな差異はないが、地域によって興味・関心を持つ人の割合に大きな差がある。
- ・農作業体験は、農業を仕事にしたいと考える人を増やす。

問：あなたは「農業」に関心や興味がありますか。（1つだけ選んでください）

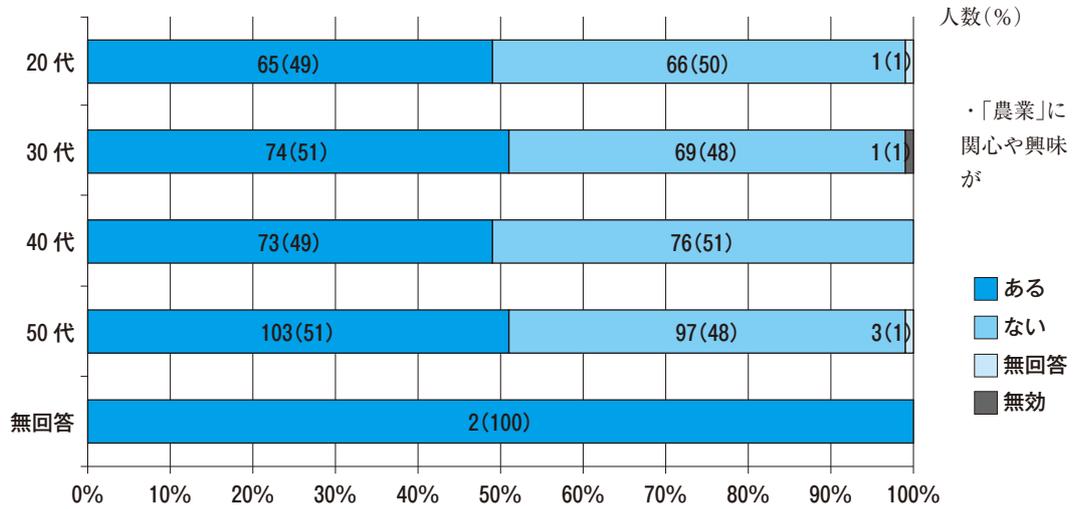


【男女別】

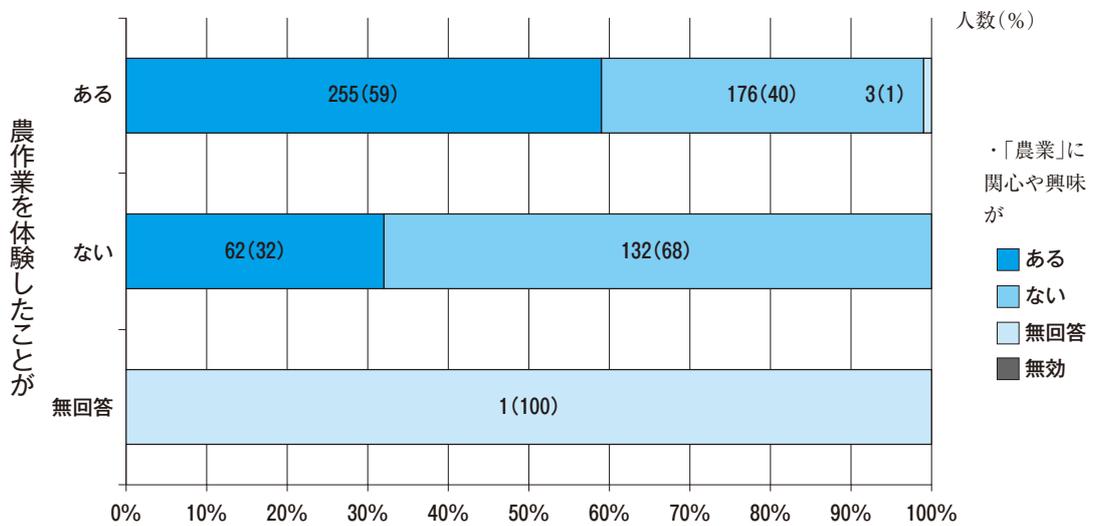




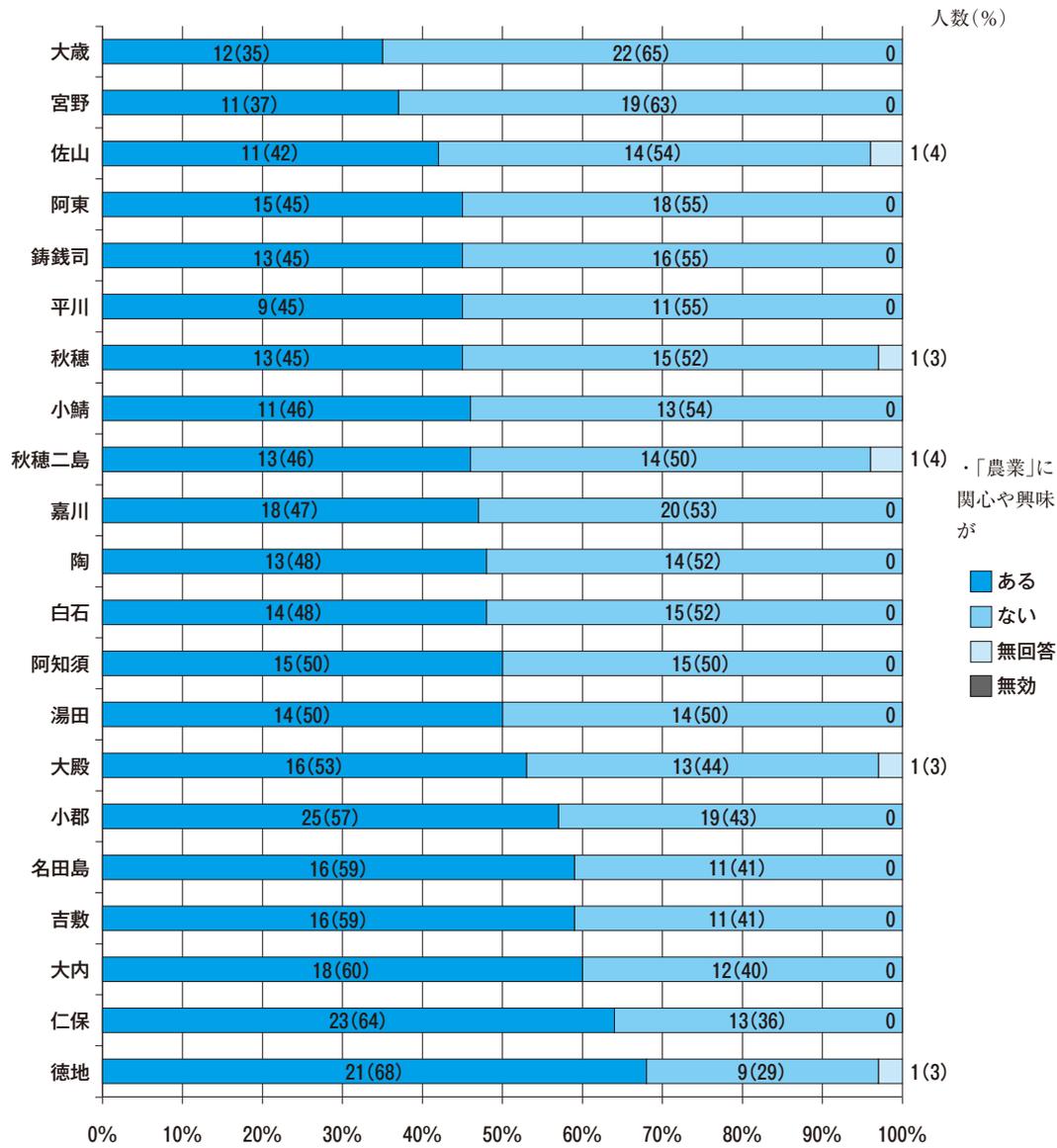
【年代別】



【農作業体験の有無別】



【地域別】



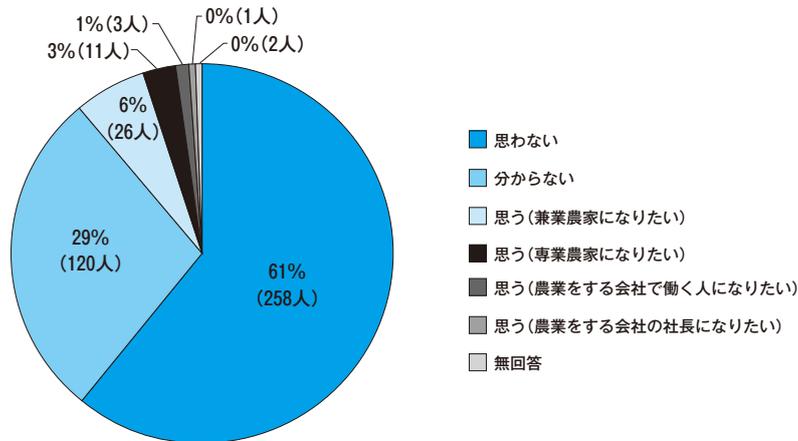


②職業としての「農業」について

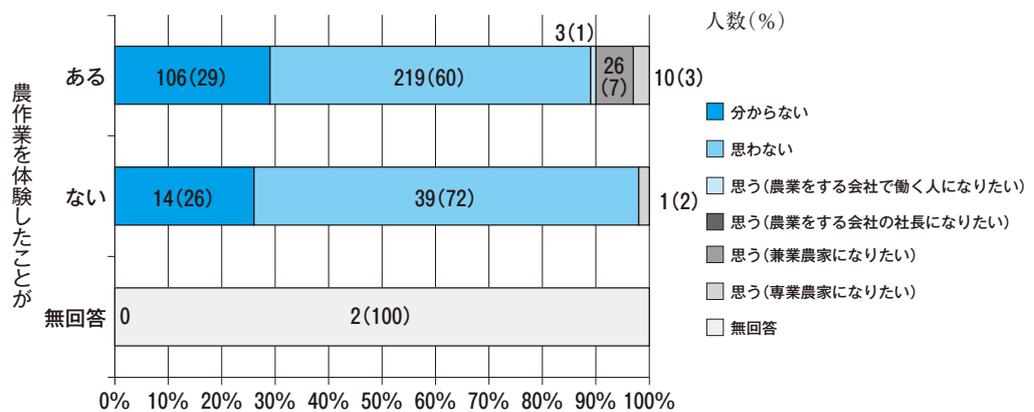
ア市内市立中学校（17校）2年生

- ・90%の生徒が「将来農業を自分の仕事にする可能性は低い」と考えている。
- ・農作業体験は、農業を仕事にしたいと考える人を増やす。
- ・仕事にしたい理由としては、「米や野菜や肉などの食べ物を作りたいから」、「身近に農業をしている人がいるから」「楽しそうだから」など、生産に興味がある意見や、農業を身近に捉えた意見が多い。
- ・仕事にしたくない理由として、「他に興味のある仕事があるから」が最も多い理由だが、「重労働だから」「もうかりそうにないから」など、「農業」に対してのマイナス要因を理由とした意見も多い。

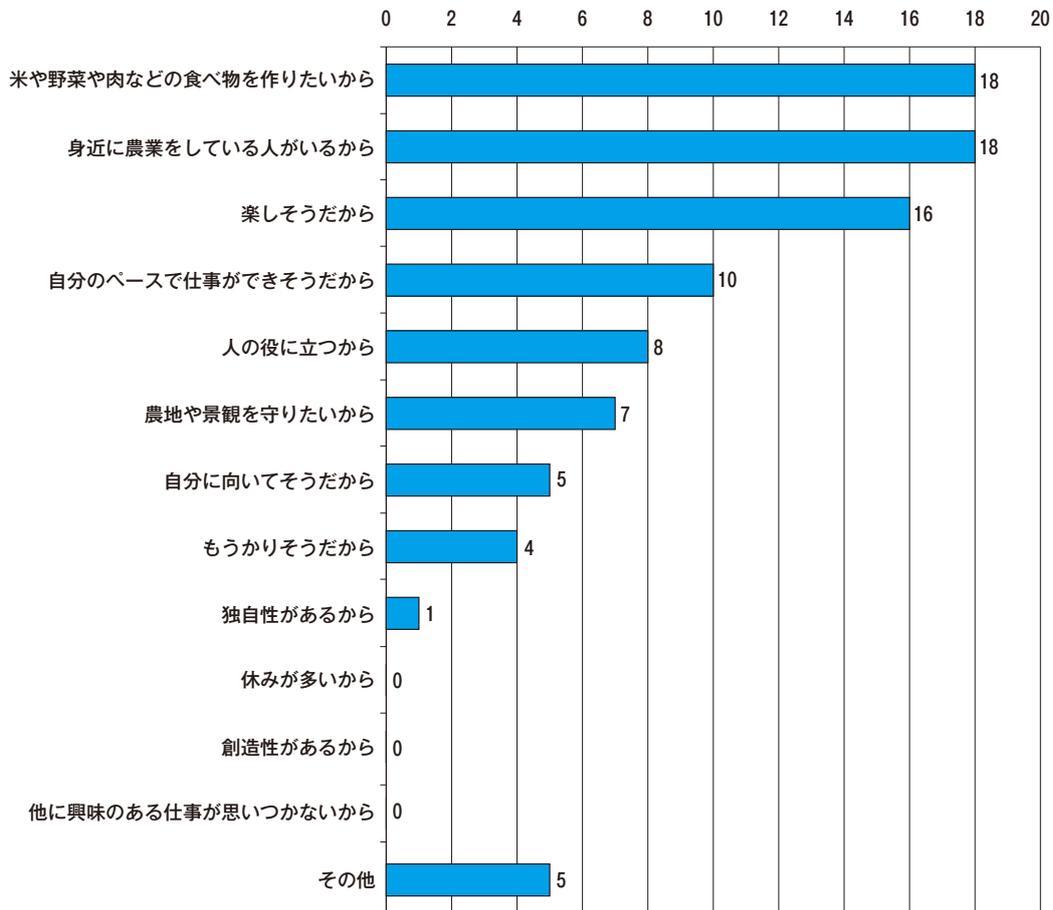
問：あなたは将来「農業」を自分の仕事にしたいと思えますか。



【農作業体験の有無別】

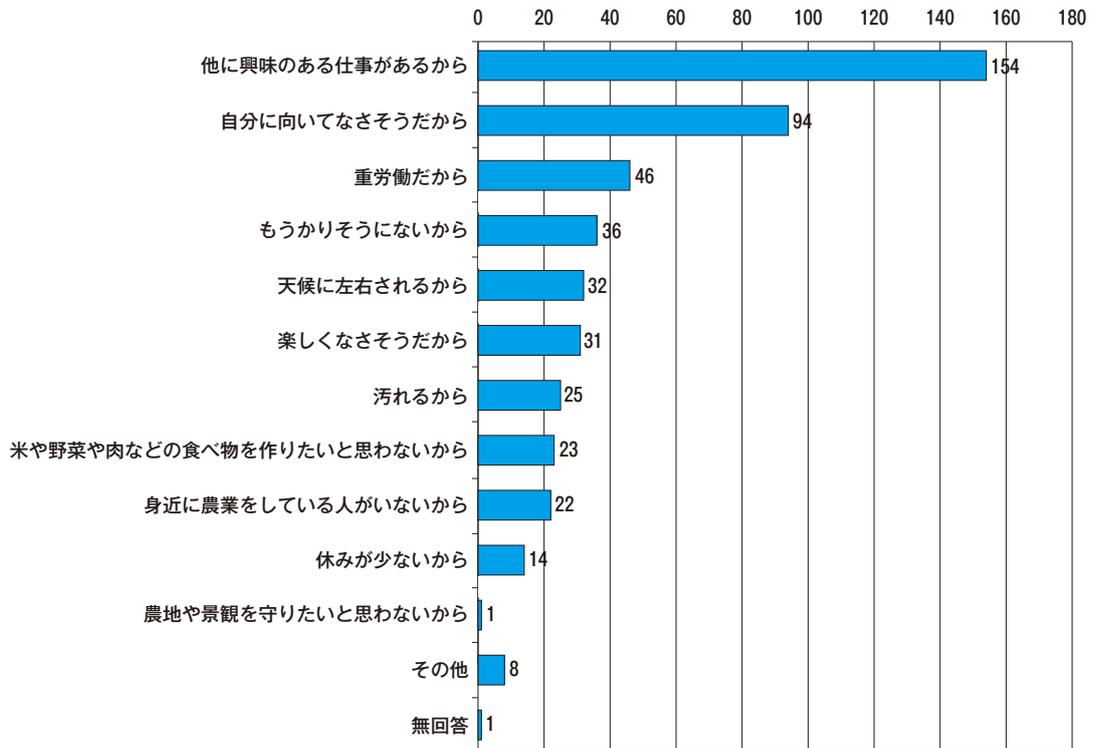


【「農業」を自分の仕事にしたいと思う理由】（3つまで複数回答可）





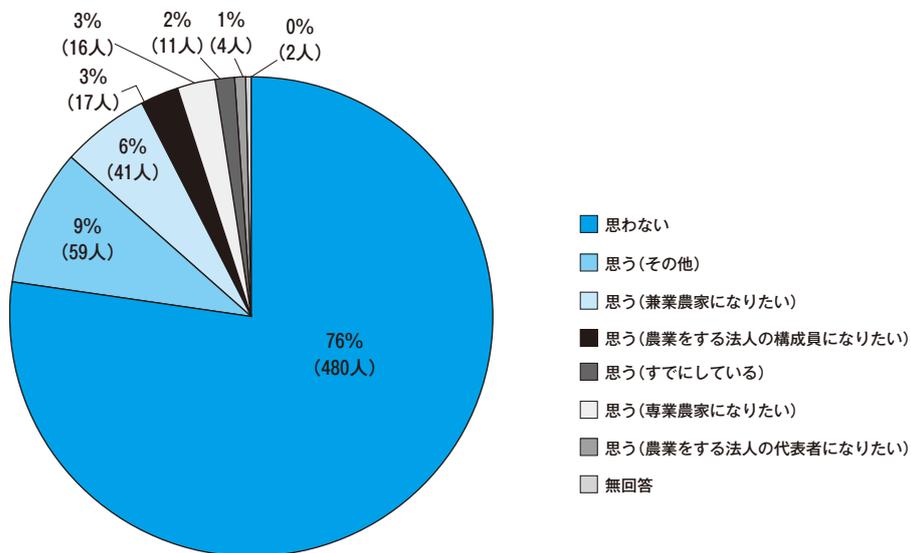
【「農業」を自分の仕事にしたい理由】（3つまで複数回答可）



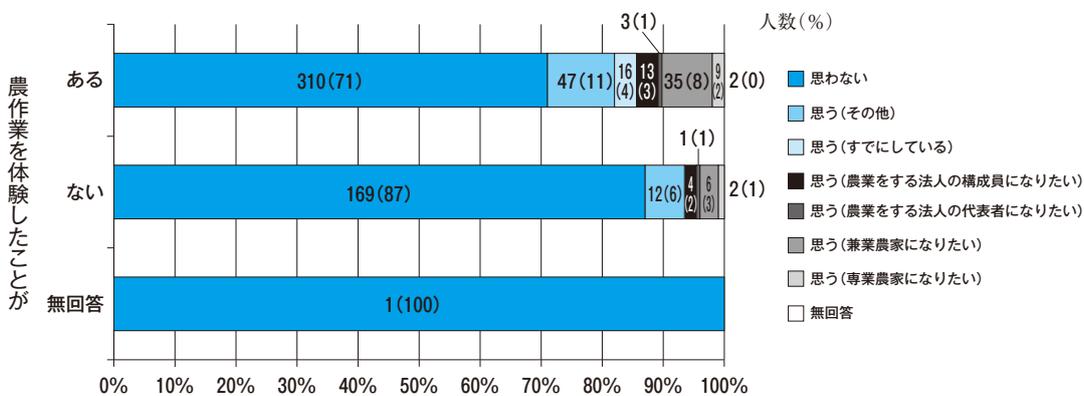
イ20～50代市民

- ・76%の市民が「農業を自分の仕事にしたい」と回答している。
- ・農作業体験は、農業を仕事にしたいと考える人を増やす。
- ・仕事にしたい理由としては、「米や野菜や肉などの食べ物を作りたいから」「農地や景観を守りたいから」「身近に農業をしている人がいるから」「自分のペースで仕事ができそうだから」など、生産に興味がある意見や、自然環境保護、農業という仕事の特性の理由が多い。
- ・仕事にしたい理由として、「自分に向いてなさそうだから」と「重労働だから」が最も多く、次いで「他に興味のある仕事があるから」「天候に左右されるから」「もうかりそうにないから」といった「農業」の実務に対しての不安要因の理由が多い。

問：あなたは将来「農業」を自分の仕事にしたいと思いませんか。

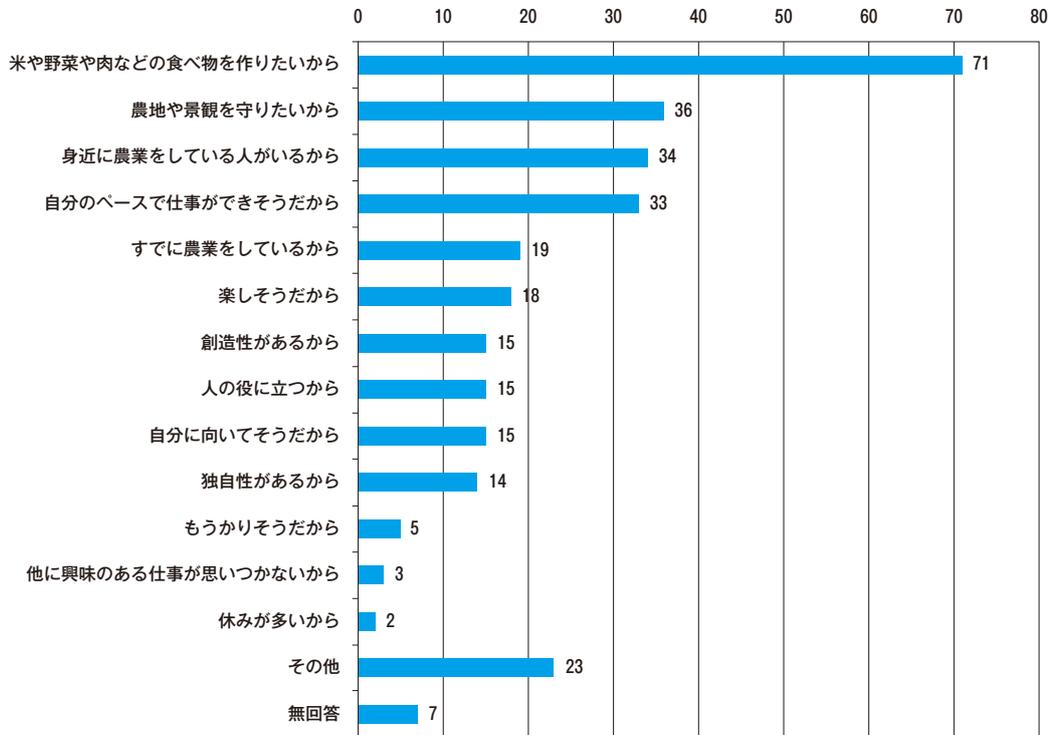


【農業体験の有無別】

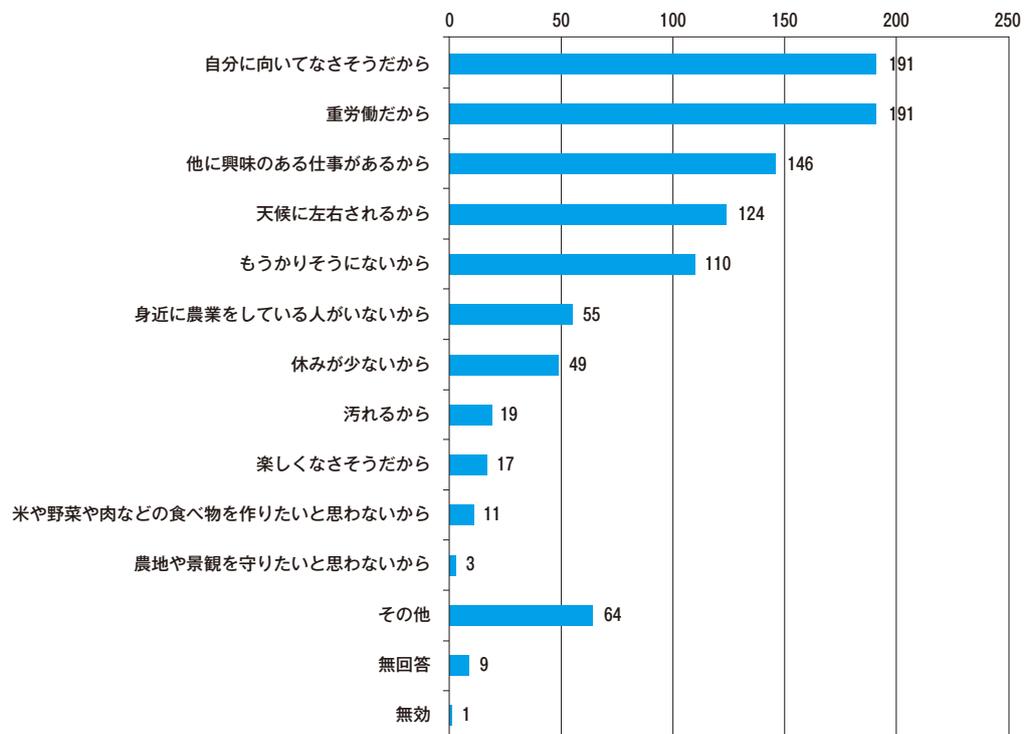




【「農業」を自分の仕事にしたいと思う理由】（3つまで複数回答可）



【「農業」を自分の仕事にしたくない理由】（3つまで複数回答可）

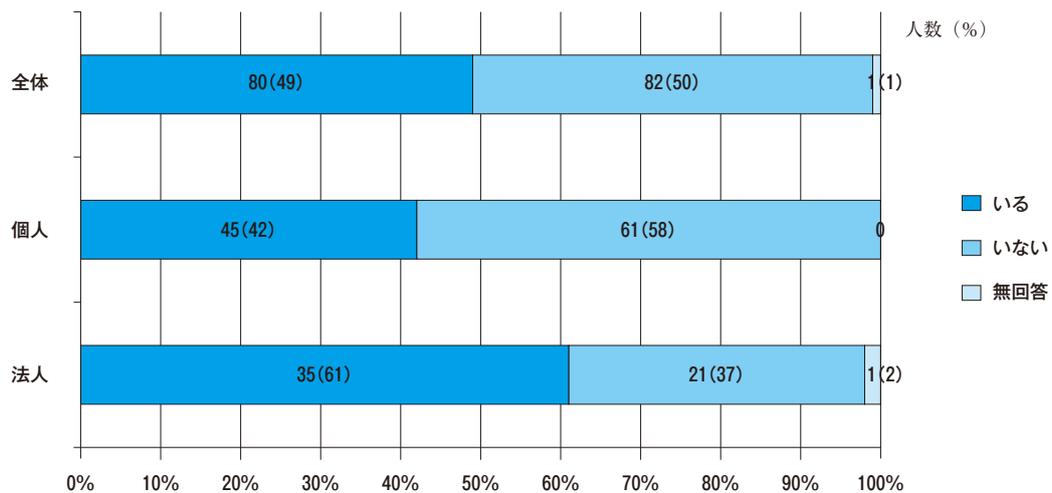


③農業経営上の問題点

ア認定農業者の組織

問：認定農業者であるあなたは「個人」ですか、「法人の代表者」ですか。

また、農業上の「後継者」がいますか。



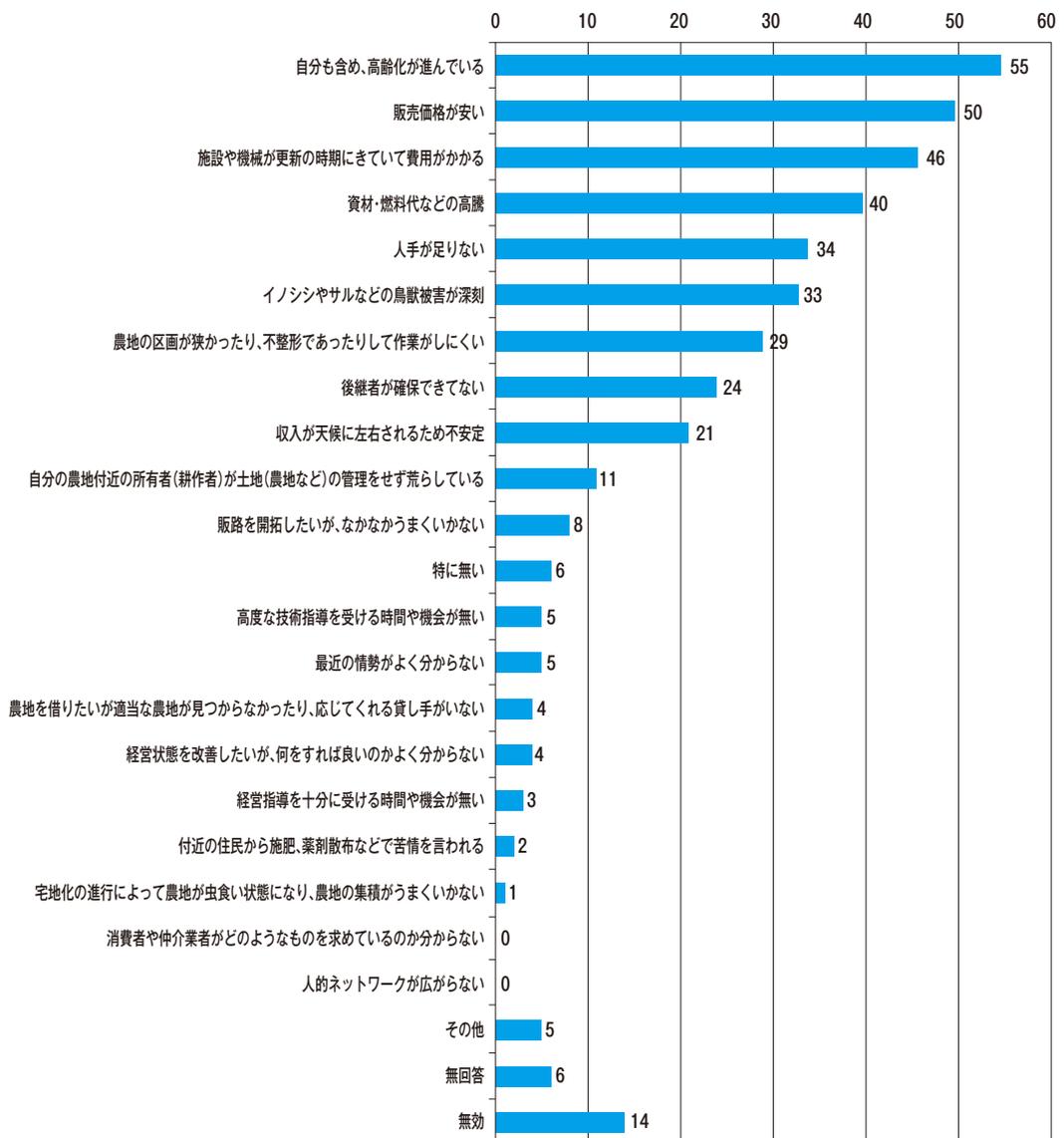
ぶちうま！キャラクター
くろちゃん



イ 農業経営上の悩み

問：農業経営上の悩みは何ですか。（3つまで複数回答可）

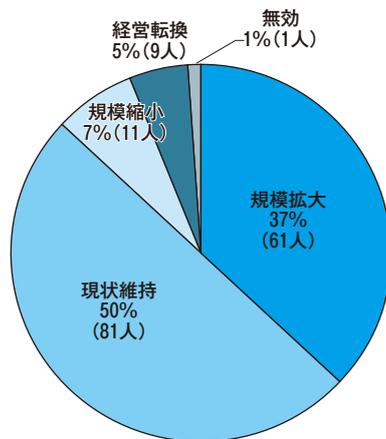
・「自分も含め高齢化が進んでいる」「人手が足りない」「後継者が確保できない」といった、農業従事者についての悩みが多く、次いで「販売価格が安い」「施設や機械が更新の時期にきていて費用がかかる」「資材・燃料代などの高騰」等の収入や支出に関する悩みがいずれも上位に挙がっている。



ウ今後の経営方針

問：農業経営の方針について、今後どのようにしたいと考えていますか。

- ・全体の半数が「現状維持」と回答しているが、残りの約4割は「規模拡大」を考えている。



問：具体的にはどのような規模拡大を考えていますか。（複数回答可）

選 択 肢	意見の数
借入農地を増やすことで経営規模を拡大	51
農作業の受託規模を大きくすることで経営規模を拡大	19
農地の面積は変えずに裏作の取組や拡大、土地利用률을上げる等して実質的な経営規模を拡大	14
農地を購入し、所有農地を増やすことで経営規模を拡大	13
飼養頭羽数等を増やす	3
飼養頭羽数等を変えずに飼養期間を短くし、回転率を上げる等して実質的な経営規模を拡大	0
その他（内訳：「6次産業化」が2、「畑作に向く農地であれば購入」が1）	3
合 計	103

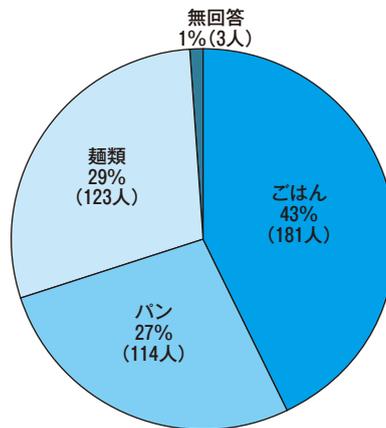


④主食としての米の潜在的需要

・「あなたが最も好きな主食はどれですか。」の問いに対し、市内市立中学校（17校）2年生及び20～50代市民のいずれも、「ごはん（米）」の割合が最も多いが、中学生においては、その割合が半数にも満たず、若年世代の米離れが懸念される。

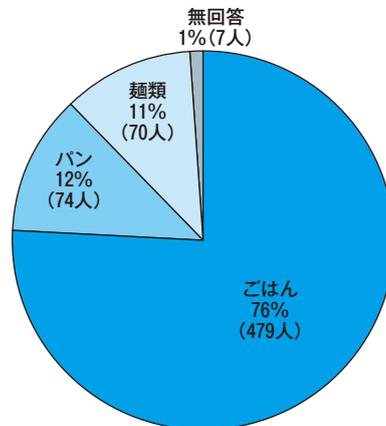
ア市内市立中学校（17校）2年生

問：あなたが最も好きな主食はどれですか。（複数回答不可）



イ20～50代市民

問：あなたが最も好きな主食はどれですか。（複数回答不可）



⑤農畜産物の主な購入先と、購入時に重視する点

・86%の市民がスーパーマーケットで農畜産物を購入しており、市内の農畜産物がこれらの店舗に多く流通すれば、市内における地産地消がより進むと考えられる。

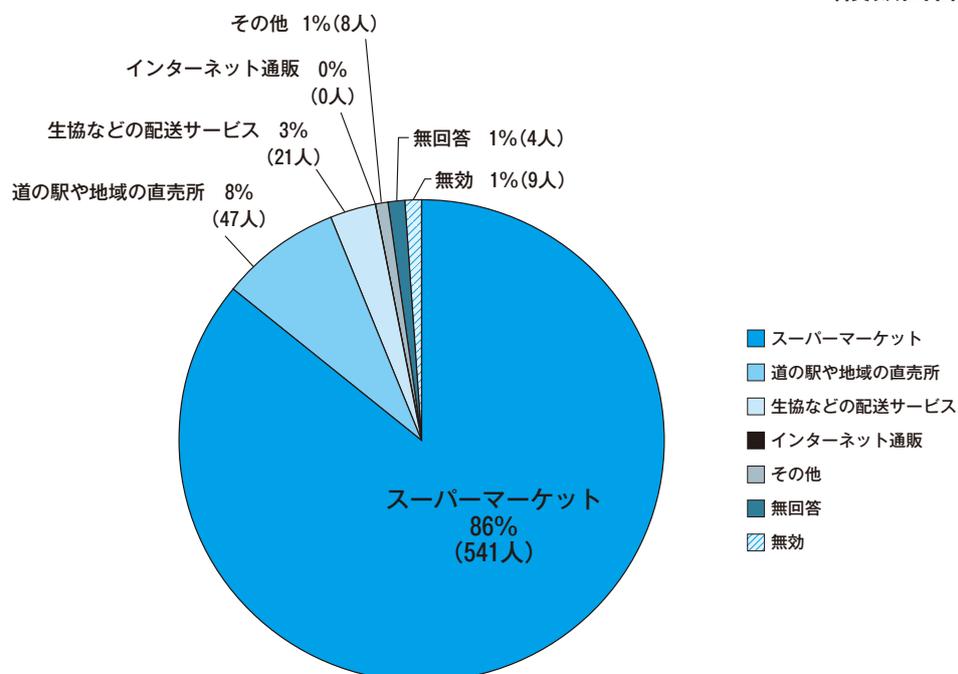
・しかし、「農畜産物を購入する際に重視する点」についての問いにおいて、「市内産」又は「県内産」であることを重視すると回答した市民は極めて少ないが、国内産であることを重視すると回答した市民は、「安心・安全かどうか」との回答に次いで多かった。

・市内市立中学校2年生については、「価格の安さ」「味」「安心・安全かどうか」「国産」の順となっており、ここでも「市内産」「県内産」を重視するという回答は極めて少なかった。

ア20～50代市民

問：あなたは米や野菜、肉などの農産物を買うとき、主にどこで買っていますか。

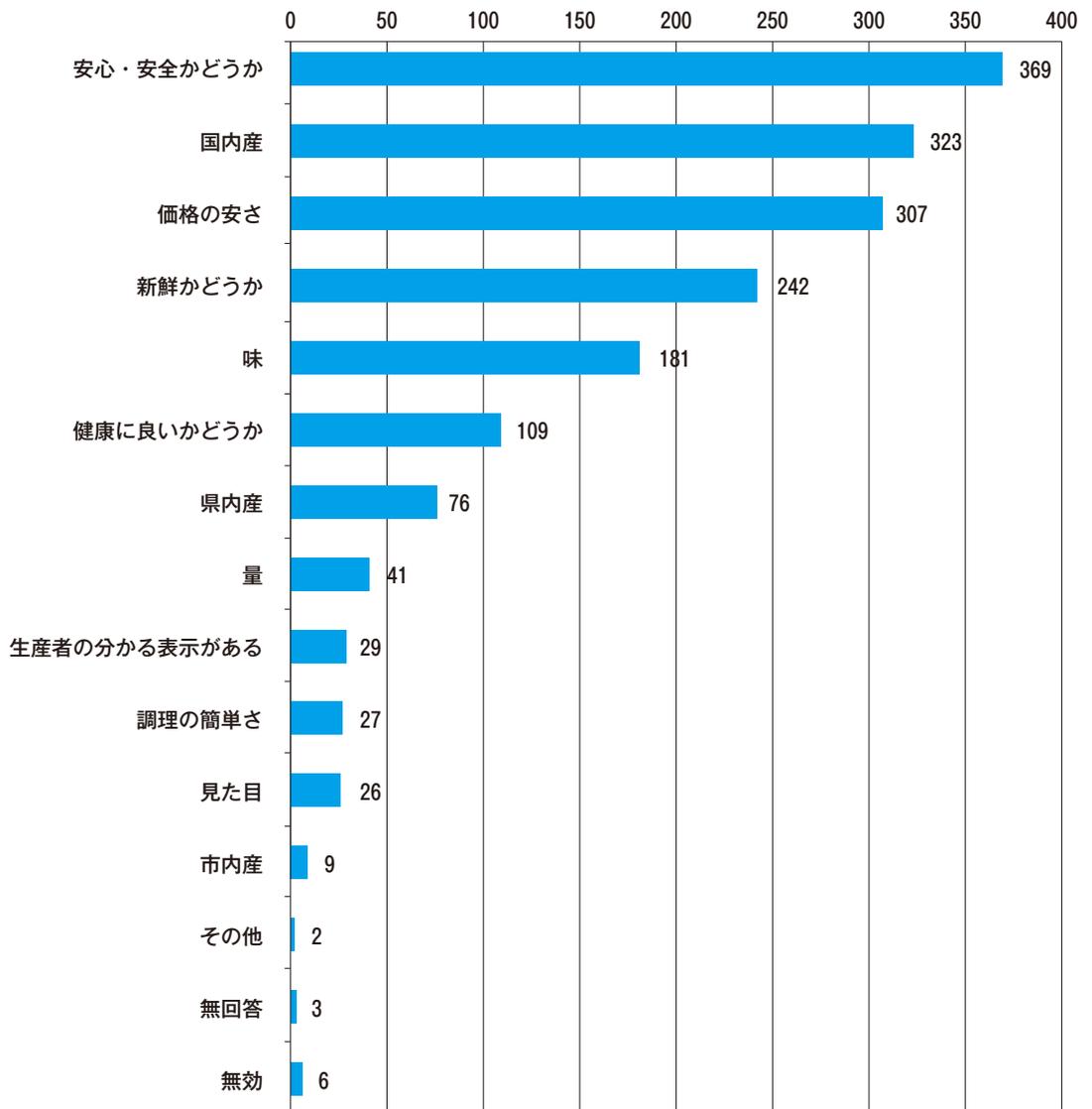
(複数回答不可)





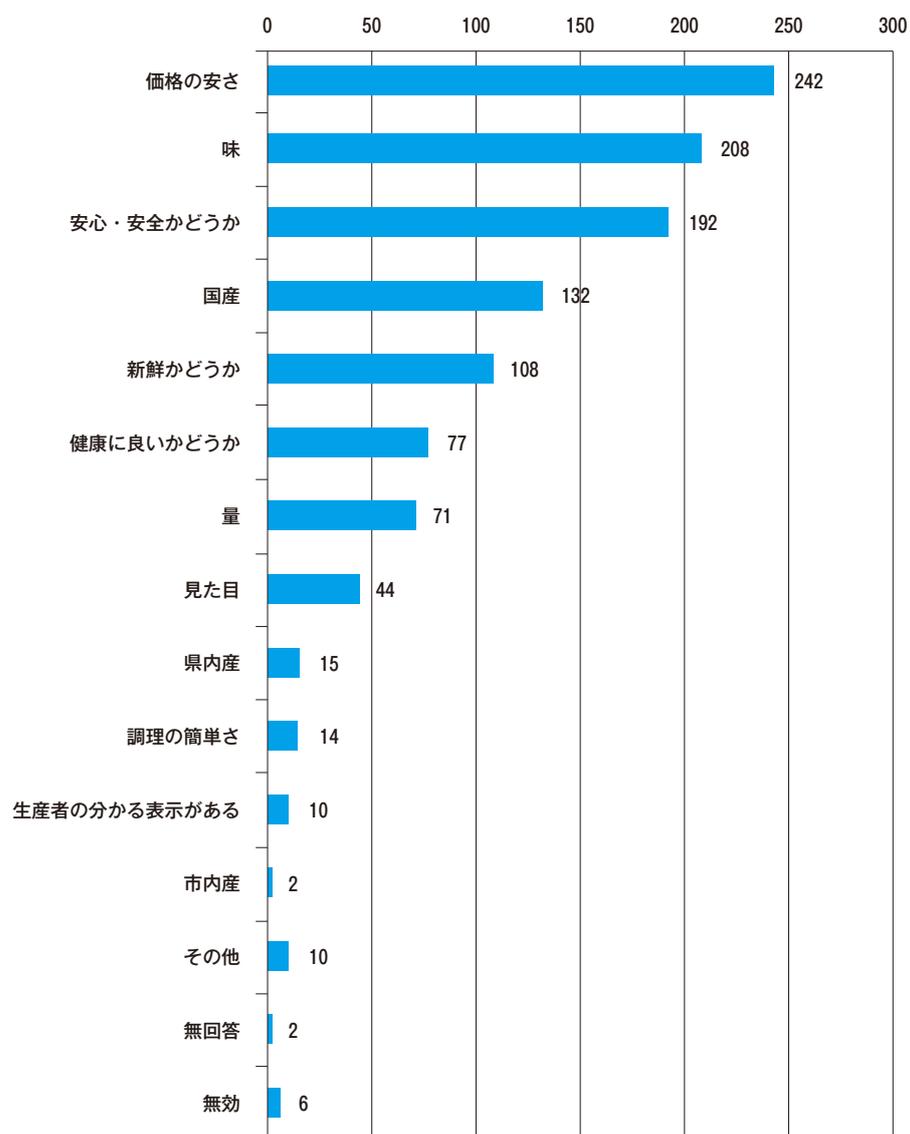
問：あなたは米や野菜、肉などの農畜産物を買うとき、何を重視しますか。

(3つまで複数回答可)



イ市内市立中学校2年生

問：あなたは食べ物を買うとき、何を重視しますか。（3つまで複数回答可）



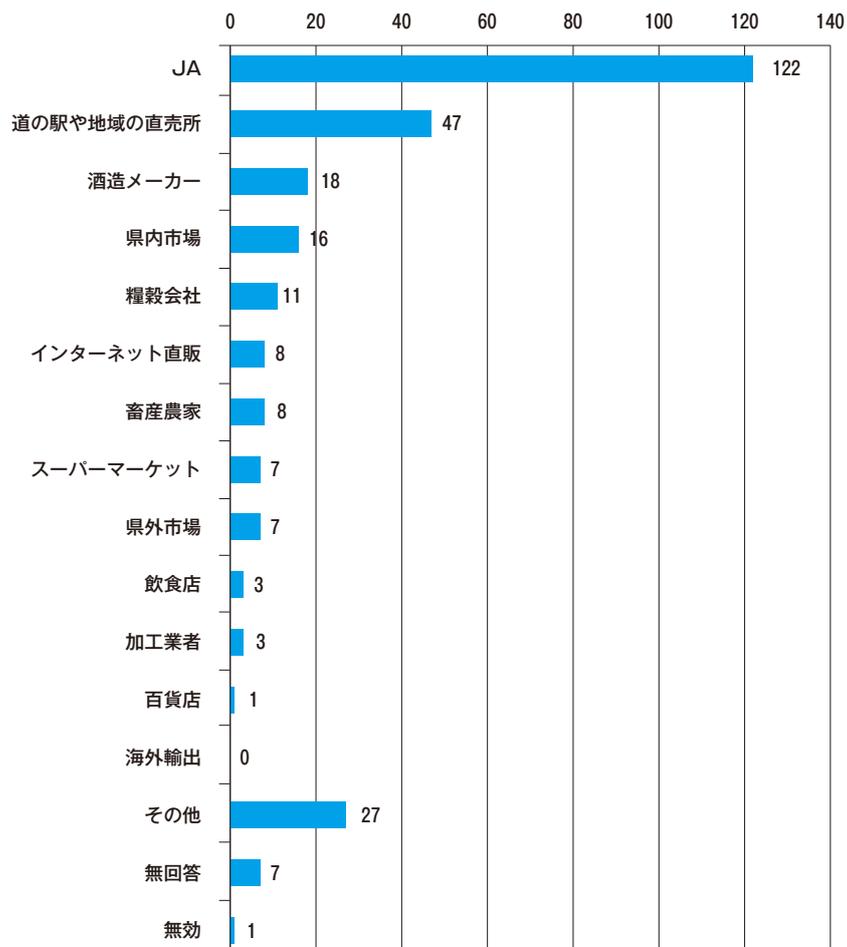


⑥農産物の販売方法・販売先について

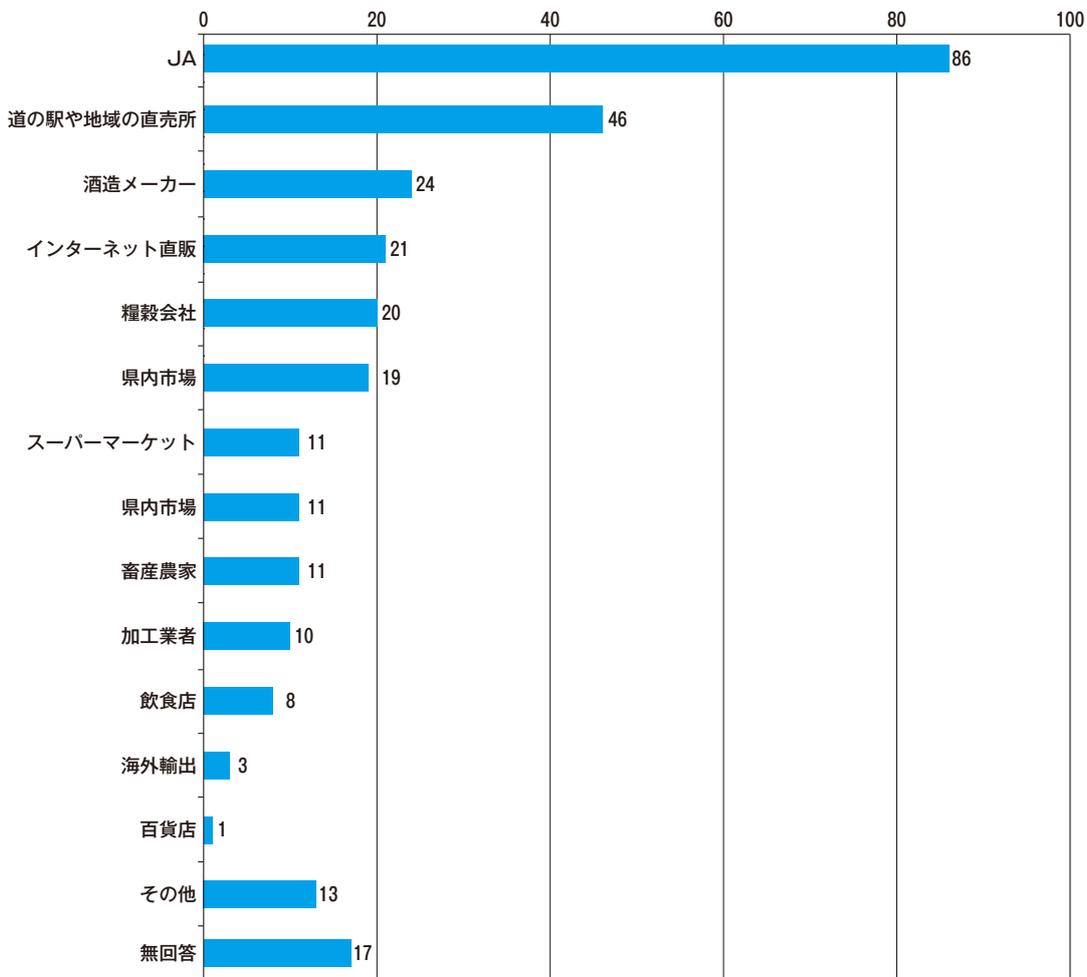
・多くの認定農業者が、販売先として「JA」を挙げている。次いで「道の駅や地域の直売所」となっているが、市民の多くが農畜産物の主な購入先としている「スーパーマーケット」を主な販売先としている認定農業者は少なく、また、今後力を入れる販売先も「JA」と考えている認定農業者の割合が大多数を占めている。

問：あなたの農産物の販売方法・販売先の内、販売量が多いところはどこですか。

(上位3つまで複数回答可)



問：あなたの農産物の販売方法・販売先について、今後どこに力を入れていきますか。(上位3つまで複数回答可)





⑦農村地域への居住希望の有無とその理由

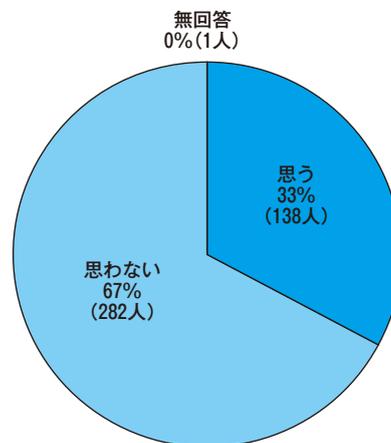
ア市内市立中学校（17校）2年生

・「農村に住みたい」と回答した生徒は33%であったが、その回答のほとんどが「農作業を体験したことがある」生徒である。また、「農作業を体験したことがある」生徒の内35%の生徒が、「農村に住みたい」と回答している。

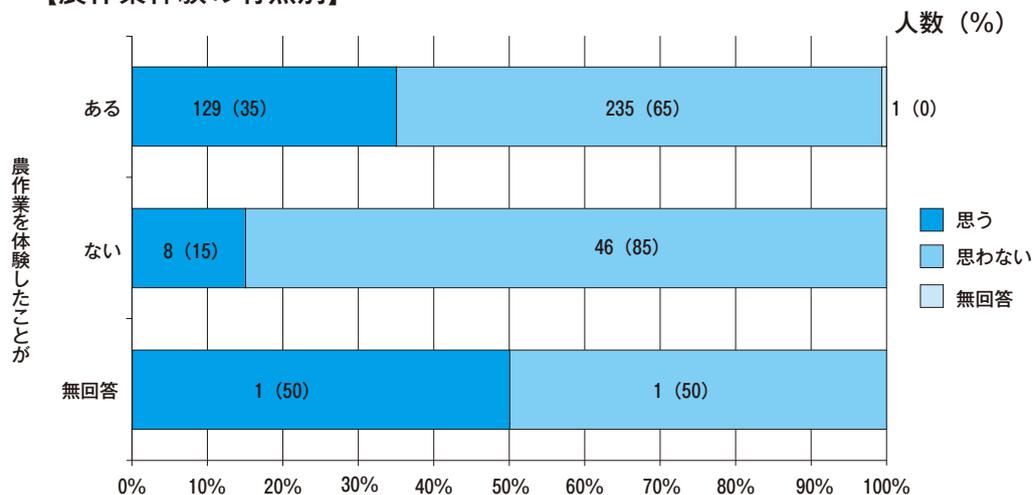
このことから、農作業体験は農村に住みたい人を増やすことが分かる。

・「農村に住んでみたい理由」としては、「空気がきれいだから」「田、山、川などの自然が多いから」「美しい景観があるから」などの、自然環境を理由とした回答が多いが、「農村に住みたくない理由」としては、「不便だから」「遊ぶ場所が無いから」「農村に住むと自分のしたい仕事ができないから」などの理由が上位を占め、自然環境以外の魅力に乏しいことが分かる。

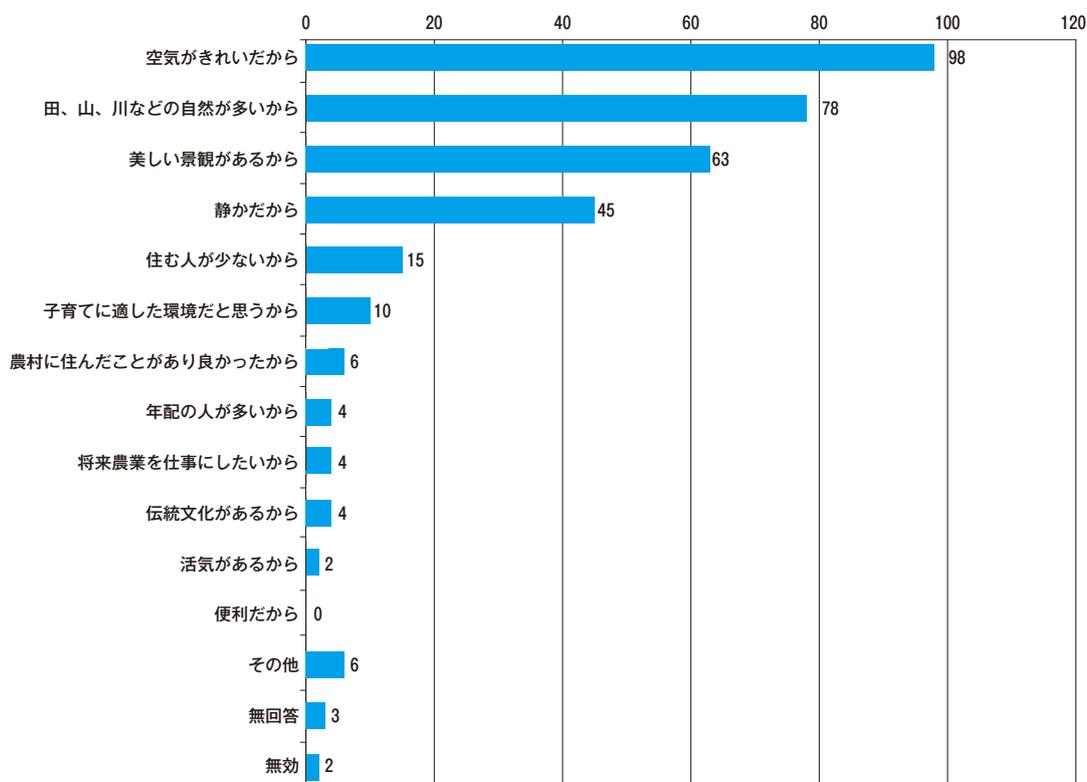
問：あなたは将来「農村」に住んでみたいと思いますか。（複数回答不可）



【農作業体験の有無別】

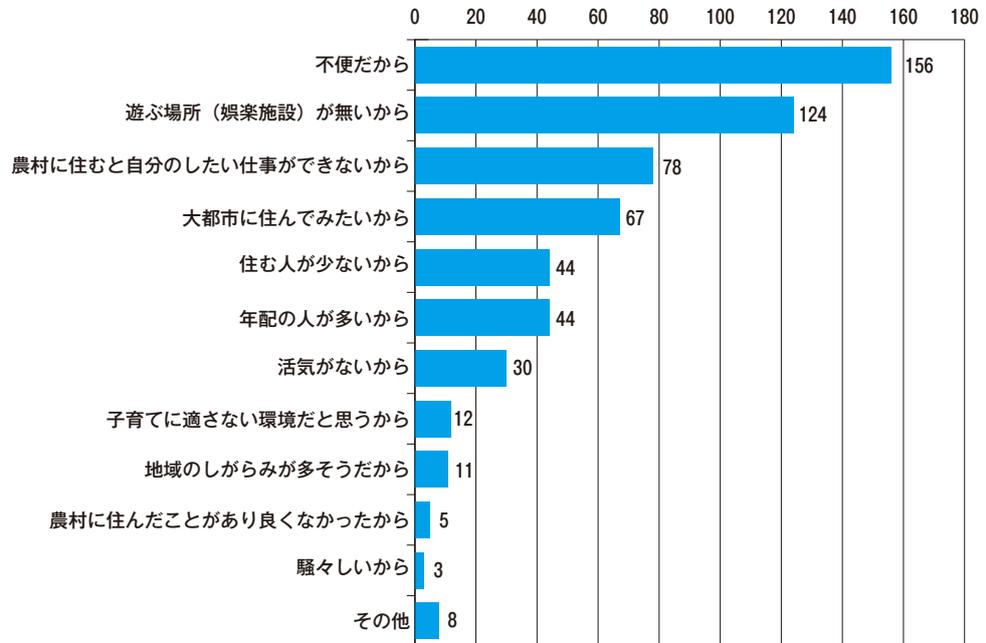


【「農村」に住みたい理由】（3つまで複数回答可）





【「農村」に住みたくない理由】（3つまで複数回答可）



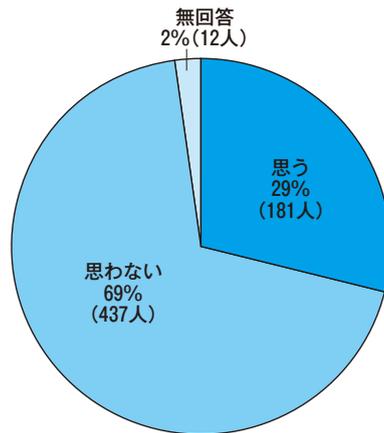
イ20～50代市民

・「農村に住みたい」と回答した市民は29%であり、中学生よりやや少ない割合であったが、その回答の多くが「農作業を体験したことがある」人である。

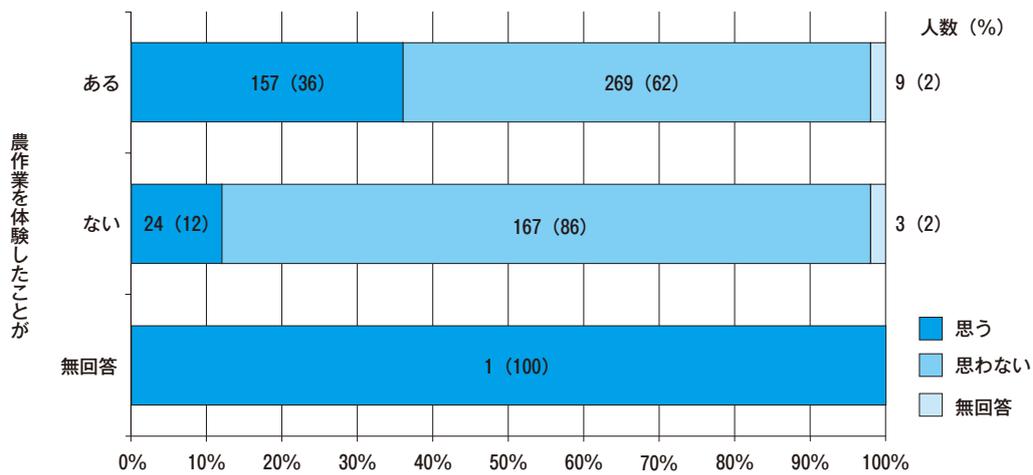
また、「農作業を体験したことがある」人の内36%の人が、「農村に住みたい」と回答している。このことから、農作業体験は農村に住みたい人を増やすことが分かる。

・「農村に住んでみたい理由」としては、「田、山、川などの自然が多いから」「空気がきれいだから」「静かだから」などの、自然環境を理由とした回答が多いが、「農村に住みたくない理由」としては、「不便だから」が全体の約4割を占め、次いで「地域のしがらみが多そうだから」「遊ぶ場所が無いから」「農村に住むと自分のしたい仕事ができないから」などの理由が上位を占め、農村地域の問題点、地域の特性を理由とする回答が多かった。

問：あなたは将来「農村」に住んでみたいと思いますか。（複数回答不可）

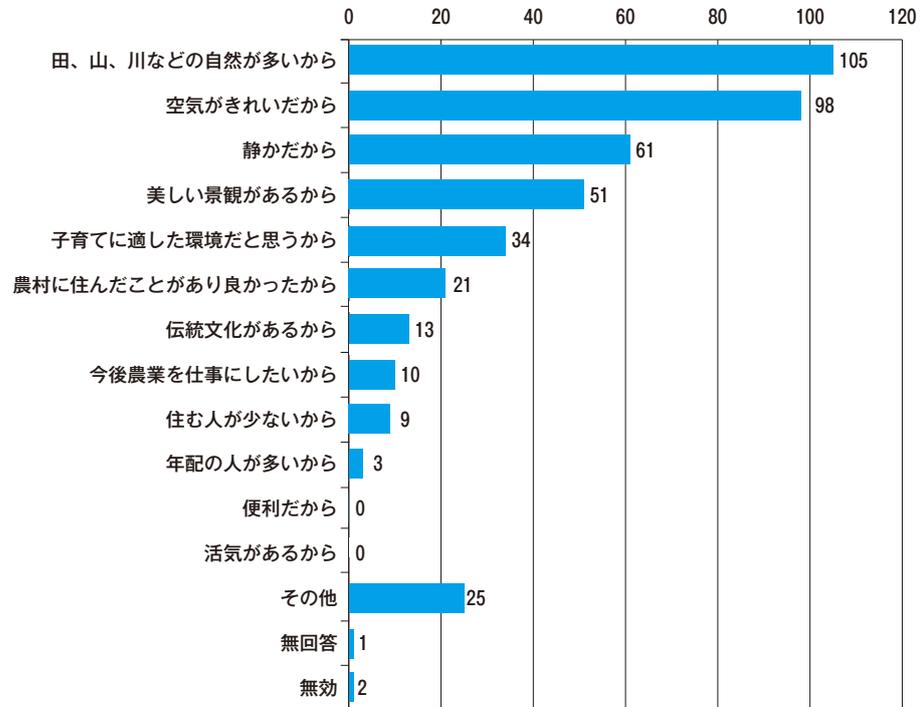


【農業体験の有無別】





【「農村」に住みたい理由】（3つまで複数回答可）



【「農村」に住みたくない理由】（3つまで複数回答可）

